

『モラトリアムの過ごし方』

鈴木 智之 (No.4422)

初めに断っておくが、私はごく普通の大学生だ。特段、スポーツができるわけでもないし、音楽の才能があるわけでもない。そういう意味で、多くの奨学生の皆さんと同じ大学生活を送ってきたと思う。そんな私の学生生活が皆さんの参考になれば幸いと思う。

私の4年間の大学生活の中で中核を成していたのは部活動である。私は未経験でありながら柔道部に入部した。なぜと思う人も多いだろうが、大学入学という節目は一からスタートを切って自分を変えるチャンスなのだ。このタイミングで新しい何かに挑戦すれば、なりたかった自分になれるかもしれない。この機会を逃せば、もうきっかけはつかめないかもしれない。そう思い、やってみたかった柔道の門を叩いた。

経験者に囲まれて練習し、何度も畳に打ち付けられたが必死に食らいついていった。最初は試合もほとんど勝てなかった。ケガをしたり体調を崩すこともあった。それでも部活はやめなかった。やると決めた以上はやり通したかったし、何より温かく迎え入れてくれた柔道部の恩に報いたかったからだ。そして先輩や後輩に支えられながら柔道を続け、4年目には小さな大会ではあるが、ついに初段軽量の部3位入賞を果たした。

この大学生活で私が学んだことは、つべこべ言わずやってみろ、という精神だ。何事も初めの一步が踏み出しにくい、それを乗り越えれば何ということはない。また、その時期は早ければ早いほどいい。後になるほど勇気が必要になる。これは部活の話に限ったことではなく、遊びもアルバイトも、留学だって同じことだ。大学は4年間と長い、ぼーっとしてればあっという間に終わってしまう。やりたいこと、やるべきことは今のうちに済ませておこう。そのための奨学金なのだから。

